

「百人一步」通信 千種版

発行 今井和夫とともに歩む「百人一步の会」

代表 今井和夫

〒671-3211 兵庫県宍粟市千種町岩野辺 1065

090-9610-2511 hyakunin-ippo@imaifarm.jp

「一人の百歩より百人の一步」の社会を作ろう (字ばかりでスマセン)

あの寒かった冬がウソのように桜が満開になりました。畑の上を流れる風が暖かいです。田んぼの荒起こしの時期も早くなりそうです。春の野菜の種まきも済まされたでしょうか？

議員の暮らしって？

議員になって約1年

昨年、5月15日に任期が始まり早約一年。多くの皆様にご指導いただきました。何せ、今までとは全く違う世界。知らないことばかり、勉強ばかりの一年でした。やっと、「何が分からないかが分かってきたかな」というところです。

次々出てくる膨大な資料

この一年で本棚に並んだ書類は1mを優に越します。そのうちのどれだけを読みこなせたでしょうか。一通り目を通すだけで精一杯のモノがほとんどです。

とにかく、この一年は、このように次々行政当局から出される資料を読んだり、また、委員会等の活動が様々にあったり(私が今所属しているものは、文教民生常任委員会、広報広聴常任委員会、議会改革特別委員会、予算決算常任委員会(全員)、政策研究会「生活圏の拠点づくり事業」分科会です。)。あと、会派での研修会をしたり、様々な行事やイベントに参加させていただいたり、また、地域の方からのいろいろな相談活動もありました。

よく「議員って日々何をしてるねん?」と言われる。私もそう思ってきました。だいたい市役所に登庁しているのは平均月10日くらい。あとは、いろんなところに出向いたり、家で調べ物、勉強しています。時間はいくらあっても足りないです。

一変した暮らしぶり

ですから、平成元年に千種町に移住して来て以来、外で体を動かす仕事が大抵の暮らしでしたが、今は一変。外での仕事は、週一回の鶏の解体と卵の配達以外、ほとんどすべてをアルバイトの方にしてもらっています。そのおかげで、安心して私は議員活動に専念することができます。

しかし、体を動かして汗をかくことがなくなってしまったので、体調はイマイチ。ですから、最近ではできるだけ一日30分は犬の散歩を兼ねて歩くようにしています。

先日、1年半ぶりくらいに自家用畑をしました。やっぱり、長靴をはいて土の上に立つとホッとします。土を忘れてたらダメですね。

千種をみんなで考えるしくみをつくろう!!

この一年、議員をさせていただいて感じたことを書かせて頂きます。それは、まず、千種町はもう一度合併の頃の原点に戻り、千種としてのまとまり、自治の形を作り直すべきということです。

合併以降「宍粟は一つ!」という言葉の元に、宍粟市全体として様々な調整され、ご苦労されたことと思います。また、現在においても、市当局はそれなりに北部地域のこともしっかり念頭に置いて市政を運営されているのも事実です。

しかし、やはり、宍粟は広い。気候も違えば暮らしの感覚も違います。例えば、山崎から姫路に行くのと、千種から姫路に行くのは全く感覚が違います。

そんな広い、様々な違いがある中で、中心部から遠く離れた千種の発展を、市当局に考えてくれ〜では、無理だなと実感します。当局も千種のこと、北部地域のことを頑張って考えているのですが、何せ広

すぎます。手が回らない。そして、やはり、暮らしの感覚も違う。

だから、千種のこと千種に住む私たちがまず考えていく必要がある。そして、それは私たちの地域にとっても、本当はとても大事なことではないかと思えます。

「地方自治は民主主義の原点」と言われます。自分たちの地域を自分たちで考え、守り、行動していく。そして、地域として主張もしていく。それが、この地域の主人公であるべき私たちが本来すべきことなのだと思います。

そのようなことをする「千種町民全体に情報が伝わり、全体の総意が集まり、みんなが動くようなシステム・しくみ」を作らなければならないのではないかと痛感しています。

拠点づくりも同じ

今、市民局の建て替えに伴う千種の新たな拠点づくりが、15名の検討委員の方々を中心に検討されています。(第9回目が4月11日にエーガイヤで19時から行われます。傍聴ぜひどうぞ。)

これも同じだと思います。今から人口が減っていくのに、今更市民局が要るのか?なんて意見も聞いたりしますが、そうではなく、もう一度、行政と住民が一体となって千種を作っていく場づくりだと思います。

ともすれば「行政機能は窓口業務だけ残してあとは本庁で」と言われたりしますが、それではダメなのです。もちろん、本庁で一括してする方がよいことは集約すればいいですが、千種の市民局には千種町をしっかりとコーディネートとしマネージメントしていくだけの職員が必要です。

そして、住民もいろんな団体や個人がしっかり集まり、考え、ともに行動していく・・・みんな暮らしに余裕がなくなり大変なのですが、それでも、元気な町は住民がよく集まってワイワイとやっています。

そんな行政と住民が一体となって集まり活動する、その拠点を新たに作っていくということだと思います。

今は過渡期 新しい形の千種町をつくっていくとき

私は、千種町は今、新しい形に生まれ変わろうとする、その過渡期の始まりなのだと思います。

人口は減っていきます。でも、「千種町はなくなっていいのか?」と言えば、それは違います。

農地の維持、国民の食料の確保、木材資源、国土保全、環境維持、自然循環エネルギーへのシフト・・・、いろんな役割がこの千種町にはあるはずだと思います。

でも、それも機械化等が進み、昔ほど人口は要りません。だから、人口は減ります。だけど、この千種の田んぼと山を維持するだけの人口、若者はここには必要なのです。

そうやって、環境が維持されれば、また、別の仕事でここに住もうとする人も出てくるでしょう。遠い通勤をしてでもここに住みたいという人も出てくるでしょう。(ここは子育てや住むには素晴らしいところです。)でも、田んぼが荒れてヤブになってしまい、昼間からキツネやイノシシがウロウロするところに人は住まないです。観光も何も成り立ちません。

だから、農林業を確立すること。農林業が若者の仕事になること。それなしでこの千種町がずっと続く道はないと思います。これは千種町や宍粟市レベルの話ではないです。国の農政です。

千種がつぶれるときは日本がつぶれるとき

日本中、千種町のようなところはいっぱいあります。それが成り立たないならば、日本は終わりです。食料や国土保全を捨てて国が成り立つはずがありません。だから、私は『千種がつぶれるときは日本がつぶれるとき』だと思っています。だから、千種はつぶしてはいけません。

『新しい町、人口は減るけど未来永劫ずっと続く町』に変わっていかねばならないのです。

正直、今の政府、そして、日本国民は農林業を守ろうという思いが弱いです。農業よりも工業優先です。(他の先進国は農林業を守る政策がしっかりとられるのにどうして日本だけ違うのだろう???)でも、それでは国は成り立たない。そして、人は心身ともにおかしくなっています。そこに気づいてもらうよう、粘り強くしたたかに私達も頑張ります。

そんなことも含めて、千種のことをみんなで考える、今私たちが頑張ればできることはみんなで頑張る、私達だけではできないことはみんなで主張していく、そんなシステム・しくみが必要だと私は思います。そして、楽しいこともいっぱいやっていきましょう。皆様、お忙しいとは思いますが、ムリのないところで、ウーン、少しだけムリして、未来の子どもたちのために頑張ります。

子育ての充実した町に!!

千種町の子ども的人数
平成30年度

年齢学年	計	男	女
0	14	8	6
1	8	5	3
2	13	6	7
3	12	7	5
4	7	2	5
5	17	10	7
小1	14	6	8
小2	12	1	11
小3	15	6	9
小4	13	8	5
小5	16	9	7
小6	19	8	11
中1	17	8	9
中2	19	11	8
中3	18	7	11

左の表は現在の千種町の子ども的人数です。正直、厳しい状況にはなりつつあります。

そんな中で、学校関係の皆様は本当に頑張っておられることと思います。

千種の子どもたちを増やしていく大きな要因の一つは教育の充実だと思います。

「千種で子育てして良かった」という声はいっぱい聞きます。

「人数が少ないからまれない」「部活が少ない」・・・、なんでも悪いところを探せばいくらでも出てくるでしょうが、それに負けない良いところ、千種でしかできない教育環境もいっぱいあります。とにかく、千種の子どもたちは素直です。それは大人が素直だから。そんな大人に守られて子どもらしく育つことのできる町です。

そんな素晴らしいところをもっと伸ばし、さらに、都会ではできない教育を目指していきましょう。きっと、都会から「ここで子育てがしたい」と引っ越ししてくる家族も出てきます。

先生方、とても頑張っておられると思います。また、千種独特の園小中高連携で様々な忙しいことと思います。が、大変ですが、それをさらに深めていってください。お願いいたします。

そして、住民の方もみなさん、できることは協力したいと思っておられると思います。地域と一体となった、千種でしかできない教育づくりをさらにみんなで進めていきましょう。

給食の食材を地域で作れませんか？

そんな中で、千種の、宍粟の教育の素晴らしいことの一つに学校給食があります。地産地消、手作り、安全性、食育・・・、本当に全国的にもまちがいなくトップレベルです。栄養士の先生方を始め、本当によく頑張っておられると思います。

ところが、肝心の地域でとれる食材の作り手がなかなかなくなってきました。みなさん、対策を考えて下さい。そんなに量は要りません。何かいい方法はないか、個人や団体で、一度考えてみていた

だけませんか。これも地域で子育てをする大きな一つだと思えます。

～これだけ農地があるのに、これだけ減った千種の子どもたちにさえも食材を作ってやれない??? 山崎や市外から買ってくる??? ～ このあたりにも、また千種を元気にする方法がひそんでいるようにも思えます。

このように様々な地域の課題がこれからどんどん出てきます。それを解決していくために、みんなで町を考えるしくみが必要なのだと思えます。

消防団の年末警戒をまわる

昨年末の恒例の消防の年末警戒の時、若者の意見を聞ける良いチャンスと思い、千種町内の全分団をまわらせていただきました。どの分団も快く迎えていただき、本当にありがとうございました。

そこで出てきた意見を一部ですが書いてみたいと思えます。

- ・病院、特に小児科が欲しい。
- ・市の住宅新築への助成(最大120万円補助)は、北部の者に山崎に出て家を建てるように勤めているようなもの。実家を二世帯住宅にする、実家の近くに家を建てる等に限り補助を出すようにすべき。
- ・もっと田舎らしい暮らしをすれば、それを求めてやってくる人もいるのではないか。
- ・仮想通貨で地域通貨を作ろうとしている所もある。そんな先進的な取り組みをしては。
- ・山崎インターのすぐ近くに「道の駅しろう」を作ればいい。それを宍粟市の観光ステーションとして、宍粟中のモノを置く。それがおもてなしだ。そこでモノを見て、そこから宍粟中にドライブやサイクリングに出かける。また、山崎の人が北部三町の産品を買う場所にもなる。インターから近いことが大事。
- ・北部に住むと特典があるようにできないか。(住宅補助、通勤費助成、固定資産税免除、etc)
- ・子育て環境や進学などを確立すれば残る若者もいるのではないか。他町に比べて子育てには良いところだと思う。
- ・安くてきれいな住宅があれば若者は入るのではないか。
- ・志引峠のトンネルを開通して欲しい。人の流れができて、企業も来やすくなる。モノも売れる。
- ・千種に就職口があっても千種の者は就職しない。出ていきたい、給料が安い。市が企業に援助できないか。
- ・コメがもっと高く売れば生活できるのだが・・・。
- ・「意識」の問題も大きいのではないか。「自分の育ったところを守りたい」それが無いといくら仕事があっても出ていくのでは。
- ・親が子どもに向かって「帰ってくるな」と言っている。それで若者が帰ってくるはずがない。なぜそんなことを言うのか。
- ・市の職員は市内に住むべき。
- ・とにかくすべてが山崎中心。
- ・箱物を作りすぎ。
- ・スポーツや音楽施設が宍粟にはない。

等、いろんな意見をいただきました。とにかく痛感したことは、私達議員も含めて、若者の意見を聞いていないなあと実感しました。彼らの親の世代の意見を聞く機会は結構あるが、この世代は聞いていない。「若者の定着が市の一番の課題」と言うのならまず当事者の意見を聞くべきと思いました。

~~~~~

他にも書かせていただきたいことはいっぱいあります。千種高校も本当によく頑張っておられます。また、次の機会にいろいろと書かせていただきます。

これから議員二年目に入ります。さらに頑張っていかなければと思っています。何かお気づきのことがございましたら、また、ご連絡ください。ご指導・ご鞭撻、何卒よろしくお願い申し上げます。